

平成27年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
むらづくり部門

地域内外が一体となって戦略的な活動を展開するむらづくり

○集団等の名称 須佐地区一本釣船団（代表 一木 清久）

○所在地 山口県萩市

○受賞理由

・地域の沿革と概要

萩市は、山口県北部に位置し、総面積は698.79km²、人口は51,587人(平成26年12月現在)である。阿武川河口部に形成された三角州とその周辺に市街地があるが、山地が大半を占めている。

須佐地区(旧須佐町)は、萩市中心部から約35kmの市東部、島根県境近くに位置している。ほとんどが山間地域で平地は少なく、水田農業が営まれる山間部と須佐湾の入り江に整備された須佐漁港周辺に集落を形成している。

・むらづくり組織の概要

- ① 須佐地区では、水産資源や漁業者の減少、魚価の低迷等による衰退が懸念されたため、須佐地区一本釣船団(昭和38年結成)は、一本釣りの水揚量の6割を占めていたケンサキイカの魚価向上対策に平成10年頃から取り組み始めた。
- ② 高単価の活イカ(生きた状態のイカ)を安定的に出荷するため、船団内での度重なる協議を経て、平成13年度から16年度にかけて畜養水槽を須佐漁港に整備した。
- ③ 平成18年には、「須佐男命(すさみこと)いかブランド化推進委員会」を発足し、イカのブランド化を通じた漁村地域におけるむらづくり活動を推進している。

・むらづくりの取組概要

(1) 漁業生産面

- ① 平成11年に開始したイカ祭りにおいて消費者の認知度とニーズを把握した上で、活イカに関する供給体制を整備するほか、直売市の開催、商標の登録、地元飲食店と連携した認定店制度の創設、マスメディアへの積極的なPR活動等を行っている。
- ② 県外から移住して漁業に就業した者の意見を取り入れ、「須佐男命いか」のブランド化や、活イカ以外のイカを使った加工品の開発につなげている。

(2) 生活・環境整備面

- ① 一本釣船団の、漁船を遊覧船として運航する観光ツアーに対する協力などを通して地区外との交流が活発化し、地区内の住民が須佐湾の景観などを魅力的な資源と再認識することにつながっている。
- ② 活イカのブランド化に向けた取組を契機に、漁協女性部は活イカ直売市の開催時期に合わせ、観光客に対する食事の提供、イカ飯や一夜干しの加工等を行い、多くのリピーターが訪れている。
- ③ 一本釣船団長の呼びかけにより平成24年に「海の森をつくる会」が発足し、魚介類が産卵する藻場の環境を改善するため、地元の小中学生等と海草の移植作業、稚魚の放流事業などに取り組んでいる。

・他地域への普及性と今後の発展方向

一本釣船団は、事前に消費者ニーズの把握に努め、船団内部で活発な議論を行いながらイカの高付加価値化やブランド化などの取組を戦略的に実施するとともに、外部からの意見も柔軟に取り入れるなど、地域の関係団体や一般住民と一体となった活動を展開しており、今後の発展が大きく期待できる。